

寺島

てらしまけんぞう

健三

さん



▲今年の寺島さんの出演は2月10、17日とのことです。
(いずれもメインステージで17時からの予定)

プロフィール

■ 寺島 健三 (てらしまけんぞう) さん / 78歳 / 支笏湖在住 / 40代で太鼓を始め、現在は支笏湖国際太鼓の指導者として大人から子どもまで地域の皆さんに太鼓の魅力を伝えるほか、氷濤まつりなどの行事で自らも演舞を行い、支笏湖の魅力を発信しています。

今年で41回目を迎える北海道の冬を代表するイベント《千歳・支笏湖氷濤まつり》が1月25日から2月17日まで開催されています。期間中、さまざまなイベントが開催されますが、圧倒的な迫力でまつりを盛り上げる《支笏湖国際太鼓》について、長年活動を続けてきた寺島さんにお話を聞きました。

●太鼓との出会いは

「30歳代のころにアイスホッケーの試合で太鼓の応援の迫力に感動し、虜になりました。当時は《かっこいい》と思いつつも、自分自身で太鼓を始めるとは思っていませんでした。40歳代になり、支笏湖観光ホテルで働いていたときに、地方巡業で四国からきた4姉妹の役者に出

会い、太鼓を教わりました。それからというものの、ホテルの若手従業員を誘い、休憩時間などを利用して練習するようになりました。ひとり、ふたりと仲間が増えて、はじめて氷濤まつりで披露したのが、平成4年です。」

●支笏湖国際太鼓とは

「チーム名は、《支笏湖から世界に広がってほしい》との思いから命名しました。最近では氷濤まつりにも外国人観光客がたくさん来ていますので、《支笏湖国際太鼓》の名が世界に広がれば嬉しいですね。オリジナルの演目として、支笏湖にある北海道最古の鉄橋《山線鉄橋》をイメージした《山線鉄橋渡り打ち》や、チップ《ヒメマス》の豊漁を祈

支笏湖国際太鼓に込めた思い

「太鼓を通して世界に伝えたい、美しい支笏湖の人と自然。」



●太鼓の魅力とは

「良くも悪くも、打ち手の思いが伝わることです。耳だけで聞くのではなく、全身で音を感じることに魅力です。支笏湖国際太鼓は、美しい支笏湖の人や自然への思いを大切にしています。その思いを太鼓を通して世界に伝えることができましたら嬉しいですね。」

「導を心がけています。」

子どもたちを指導するときは、《やさしさ》と《厳しさ》の両方の表情を見せる寺島さん。「だから元氣な限りは続けたい」と照れくさそうに話すその表情から、地域への深い愛情を感じました。



▲毎週火曜日に支笏湖小学校で指導。楽譜は使わず、五感で感じる指導を心がけています。